

製品名: Max (リン酸化 Ser2) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04979**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	MAX
別名	MAX; BHLHD4; Protein max; Class D basic helix-loop-helix protein 4; bHLHd4; Myc-associated factor X
遺伝子 ID	4149.0
SwissProt ID	P61244
免疫原	抗血清は、ヒト MAX 由来の Ser2 リン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

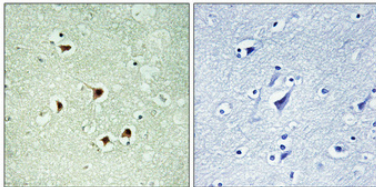
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、基本ヘリックス・ループ・ヘリックス・ロイシンジッパー（bHLHZ）転写因子ファミリーのメンバーです。Mad、Mxi1、Mycなどの他のファミリーメンバーとホモ二量体およびヘテロ二量体を形成します。Mycは、細胞の増殖、分化、アポトーシスに關与する腫瘍性タンパク質です。ホモ二量体およびヘテロ二量体は共通の DNA 標的部（Eボックス）をめぐって競合し、これらの二量体間の再編成によって複雑な転写制御システムが構築されます。この遺伝子の変異は、遺伝性褐色細胞腫との關連が報告されています。この遺伝子の偽遺伝子は、7番染色体長腕に位置しています。選択的スプライシングによって、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2012年8月]、代替製品：追加のアイソフォームが存在する可能性があります。、注意：ここに示す配列は Ensembl 自動解析パイプラインから得られたものであり、予備データとして考慮する必要があります。、機能：転写調節因子。MYCまたはMADと配列特異的なDNA結合タンパク質複合体を形成し、コア配列5'-CAC[GA]TG-3'を認識します。MYC-MAX複合体は転写活性化因子であり、MAD-MAX複合体は転写抑制因子です。H3-K9ヒストンメチルトランスフェラーゼ活性を含むクロマチンリモデリング複合体のリクルートを介して転写を抑制する可能性があります。、PTM：可逆的なリジンアセチル化は、特定のMax複合体の核-細胞質間輸送を制御する可能性があります。、類似性：1つの基本ヘリックス-ループ-ヘリックス（bHLH）ドメインを含む。、サブユニット：効率的なDNA結合には、別のbHLHタンパク質との二量体形成が必要である。MYCまたはMADとヘテロ二量体としてDNAに結合します。G0期のE2F6.com-1複合体の一部であり、E2F6、MGA、MAX、TFDP1、CBX3、BAT8、EUHMTASE1、RING1、RNF2、MBLR、L3MBTL2、およびYAF2で構成されています。SPAG9と相互作用する。、組織特異性：脳、心臓、肺に高濃度で存在し、肝臓、腎臓、骨格筋には低濃度で存在する。、

研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;がんにおける経路;小細胞肺癌;

画像データ



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は1:100（4℃、一晚）に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA（pH8.0）を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール（右）は、免疫原ペプチドで前処理した。